

# アトリエ 琉游舎 だより 38号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)

2018年10月24日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>



- 「一服延寿」お茶で一服しませんか？緑茶・麦茶・ほうじ茶・紅茶・コーヒー・ココア  
みなさんのお好きな飲み物でリラックス。気持ちがゆったり穏やかになると、ちょっとだけ幸せな気分になります。幸せな気分が続くことが延寿の秘訣の一つかもしれません。
- 「一福延寿」という言葉があります。小さなこと一つ一つにも悦び感謝して幸福を感じる事が出来れば、毎日が充実し千寿万寿の悦びに繋がると言う教えです。
- 「一服」は「一福」をもたらします。ささやかですがくつろぎと安らぎのひとつとき。
- 琉游舎の一服にはお茶とおしゃべりがつきものです。定期開催している「詩話会」「読書会」「写経会」「映画会」。どれも終わった後は「一服」。おしゃべりをしながらゆったりとした時間が過ぎていきます。
- 随時開催しているのが「おしゃべりの会」。散歩がてら、退屈しのぎに一服。琉游舎をのぞいてみて下さい。話し好きの舎主がお待ちしています。
- 琉游舎で「一服」そしてそこからささやかな「一福」を感じていただければ、それは私と皆さんとそしてそこから広がる千寿万寿の悦びに繋がることでしょう。
- 琉游舎で「一服延寿」お待ちしております。

木 金 土 日

## 11月のスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
			25 映画会お休み 居酒屋の会お休み	26	27	28
29	30	31	11月1日 映画会 13:30	2	3	4 写経会 13時半
5	6 写経会 13時半	7	8 映画会 13:30	9	10 詩話会 13時半から	11
12	13 読書会 13:30	14	15 映画会 13:30	16 休舎	17 休舎	18 休舎
19 休舎	20	21	22 映画会 13:30	23	24	25 居酒屋の会 16時～
26	27 読書会 13:30	28	29 映画会 13:30	30	12月1日	2 写経会 13時半

**詩話会**  
11月10日(土)  
13時半から

**読書会**  
11月13日(火)  
11月27日(火)  
13時半から

**写経会**  
11月4日(日)  
11月6日(火)  
13時半から

**映画会**  
毎週木曜日  
13時半から

初めて山にキノコ採りに行ってきました。と言うより椎茸などのキノコが群生している「キノコの畑」に、導かれるままに連れて行って貰ったという方が正しいのかもしれませんが。その人は実践知識と学術知識の両輪を兼ね備えたキノコマイスターと呼ぶにふさわしい人です。ですから私はマイスターの歩く後をその通りにたどり、その通りに収穫しその通りに調理しその通りに頂きその通りに保存しました。そして来年もまたそのマイスターの行う跡を忠実にたどり、キノコ取りの喜びのお裾分けをいただきたいと、今から1年先を楽しみにしているところです。

人の歩く後をその通りに歩み行動すると言うことは、簡単なようでとても難しいことではないでしょうか。ただ根拠無く後をついて行くだけであれば、それは盲信であり信頼とは別物です。その人に身も心も預けるわけですから、前に行く人の言動に疑念が浮かんだ瞬間にもう後をついて行くことは出来ません。その人に対する絶対的な信頼がないと成り立たないのです。ではその信頼はどこから来るのでしょうか。

行き帰りの車中でキノコマイスターへの道のりを伺うと、きっかけは、今までの経験知だけに頼って採ったキノコでひどい食中毒になったことだそうです。それから彼の「行学二道」が始まりました。キノコに関する図鑑や文献を渉猟し、シーズンには三日と空けず山に入り、学習－実践－確認・修正をたゆみなく今日まで続けてきているのです。キノコの名前・外観・生育環境・生育過程・成分・食べ方・保存方法・効用などの知識を頭に入れ、実践と情報収集により日々知識の更新をしているのです。「実践＝行」と「知識＝学」を車の両輪として「きのこの道」を歩む姿は求道者そのものです。左の車輪が大きいと右にカーブしてしまいます。真っ直ぐに道を進むには両方の車輪が等しく回らなければなりません。「行」が大きければその行為によって暴走し、道を外れてしまう危険があるでしょう。「学」が大きければ蘊蓄と議論に終始して、いつまでも道に走り出すことは出来ないでしょう。どちらかに傾くことなく車輪の大きさが等しければ、「行」の道と「学」の道を脱輪することなく平行に進むことが出来るはずで、絶対的な信頼は、その人の行学両輪が走らせる車に私達が安心して乗せて貰うことなのかもしれません。

日蓮聖人の「諸法実相抄」の一節です。「行学の二道をはげみ候べし 行学たへなば仏法はあるべからず 我もいたし人をも教化候へ 行学は信心よりをこるべく候」口語訳は「修業と教学の両方に励みなさい。行学が絶えたところに仏法はありません。自分も実践し人にも教え導いて行きなさい。行学は信心から起こるのです」となります。「実践」と「知識」の二つがあって初めて仏の道、つまりはお釈迦様の歩んだ後を辿ることが出来ると言われているのです。そしてその道のたどり着くところは安らぎの処です。また一人だけでその道を進むのではなく、自ら実践し獲得した教えを人にも語り、手を取り合って一緒に歩んで行きなさいとも言われています。導くとは誰かが誰かの手を引っ張っていくことではありません。互いが得たものを分かち合い、伴に善知識となって導き合うことです。そして行学の原動力は「信」です。私はここで言う「信」を仏教を信じることと限定したくはありません。日蓮聖人の時代に限らず西洋の哲学が輸入される明治以前は「学」に裏付けられた人の行動や倫理規範はほとんど仏教に依存していたと言っても過言ではないでしょう。人々が「今を何とか良く生きたい」と願うためのよるすべは仏法のほかないのが現実でした。特に日蓮聖人にとっては仏法が生きることそのものだったのです。「信」は良く生きたいという願いを信じることです。現代はその願いを信じるのが難しい時代です。願い（欲望）が多すぎて真の願い（誓願）が見つけれないからです。宗教家とはいづの時代も、私たちの真の願いを見極めこれだと言って提示し一緒になって実現に向かって歩む人達のことです。言わずもがなでしょうが、今の日本には宗教家は果たして存在しているのでしょうか？

良く生きたいと願うことは「今あるここから歩み続ければ必ずたどり着くことが出来るあそこ」を信じることです。今を信じ毎日を信じ明日を信じ未来を信じつまりは「今あるあなたの生きること」を信じることです。生きることを信じるからこそ、こうやって毎日の生活があり、喜怒哀楽があり、自分が今ここにあると実感できるのでしょう。先ほどの日蓮聖人の言葉を、私は今あるわたしに沿って現代語訳してみます。「日々前向きに意志を持って行動しなさい（行）そして生きるための智慧を身につけなさい（学）そうすれば毎日の生活を楽しく安らかに過ごせるのです。自分一人だけでなくその楽しい生活を皆と語り合い、分かち合いなさい。それは今あるあなたの生きること（信）から始まるのです。」

私の行学二道はこの現代語訳につきます。日蓮教学を極めた偉いお坊さんや学者の方からは素人考えの戯言と無視されるか、どこにそんなことが書いてあるのかと糾弾されるかでしょうが、実践と生きる智慧に裏付けられた「信」は強いのです。私は先日のキノコ採りで行学二道の本質を教えられました。かのキノコマイスターだけでなく、道を求める人達は、私が見ようともしなかつた

琉游舎：戸井 出琉・恭子

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17 コリーナ矢板C-850

Mail:toi101izuru@outlook.jp

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

それではまた次号でお会いしましょう。（出琉）